

『巡検会報告』

「宮崎県鞍岡付近の中生界」

熊大・教育 島田 礼二

平成9年10月25日(土)、熊大教育学部の田中均先生の案内で表記の巡検会が晴天の中行われた。今回の目的は、宮崎県鞍岡地域一帯に分布する中生界の地層観察及び化石採集を行うことである。参加数は16名で、4台の車に分乗し、朝8時30分、熊大大学教育センター(前教養部)前を出発した。

宮崎県五ヶ瀬町鞍岡の祇園山周辺は、西南日本外帯の黒瀬川帯(秩父帯中帯)に位置し、いわゆる中生界盆地と呼ばれる地域の一つで、上部三畳系から白亜系の浅海成堆積相と、それに隣接する中・古世界の混在岩相からなり、さらに、それらの境の構造帯に出現する火成岩・変成岩類を含む地層群である。

午前中は下部白亜系の高畑層の露頭で化石採集を行う(図1地点①)。高畑層は下部層の砂岩優勢層と上部の赤色礫岩優勢層に分けられるが、今回はその下部層の砂岩層中(図2, KU-3地点)より化石採集を行い、*Nanonavis takahataensis*, *Pterotriconia takahataensis* や *Astarte yatsushiroensis* などの二枚貝化石を採集することができた。午前中の巡検は以上で、この後は高台の見晴らしのいい場所で昼食をとった。

昼食後場所を移動し、上部三畳系の室野層の露頭で化石採集を行う(図1地点②)。室野層は主に砂岩頁岩の厚層の互層からなり、一部にスランプ礫岩を挟んでいる。今回は互層中の砂岩(図3, MU-3地点)より、*Monotis ocotica ocotica* 等の比較的保存の良い化石を採集した。この後場所を移動して下部白亜系の笠部層の露頭観察並びに化石採集を行う(図1地点③)。笠部層は主に砂岩頁岩互層からなる地層である。今回は数種の巻き貝・二枚貝が掃き寄せ状にわずか数十cmの厚さに密集している露頭(図4, KA-1地点)を観察し、化石を採取した。この後移動し祇園山西方のシルル〜デボン系の祇園山層の石灰岩の露頭を観察した(図1地点④)。石灰岩中のサンゴ化石を観察するつもりだったが、今回は残念ながら化石を見つけることはできなかった。この後場所を移動し最後の観察地点である上部三畳系の大石層の露頭を見る(図1地点⑤)。大石層は砂岩泥岩互層のタービダイト層主体で、塊状あるいは厚層砂岩層、頁岩層及びスランプ礫岩を挟む層である(図5)。今回観察予定の露頭は一部吹き付け工事が行われており露頭を十分に観察できなかった。今回の予定は以上で、この後休憩を取りながら約2時間ほどで熊大に戻り、そこで解散した。

最後に終始丁寧な説明をしていただいた田中均先生に感謝を申し上げて巡検会報告とする。

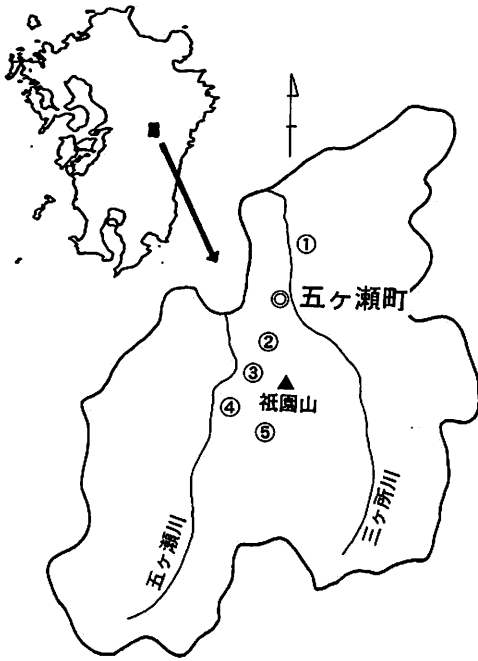


図1 巡検会ルート

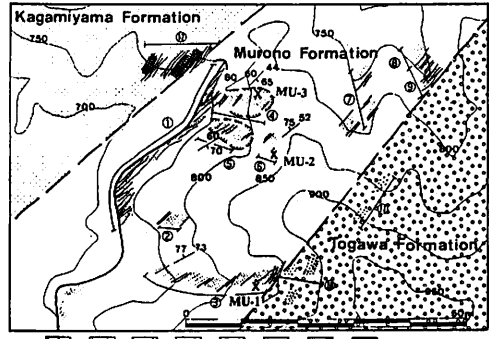


図3 笠部北方室野層のルートマップ

a: 礫岩, b: 砂岩, c: 砂岩頁岩互層, d: 頁岩, e: 蛇紋岩, f: 擾乱帯, g: 戸川層, h: 鏡山層, i: 化石産地, j: 断層

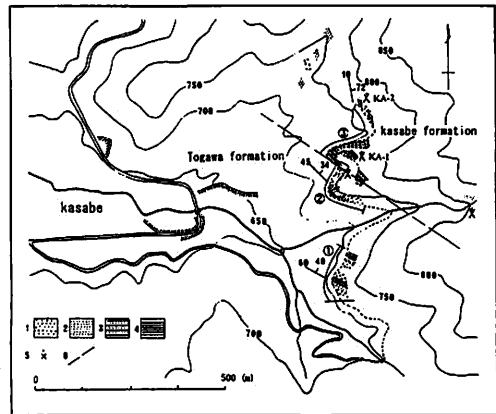


図4 笠部東方のルートマップ

1: 礫岩, 2: 砂岩, 3: 砂岩頁岩互層, 4: 頁岩, 5: 動物化石, 6: 断層

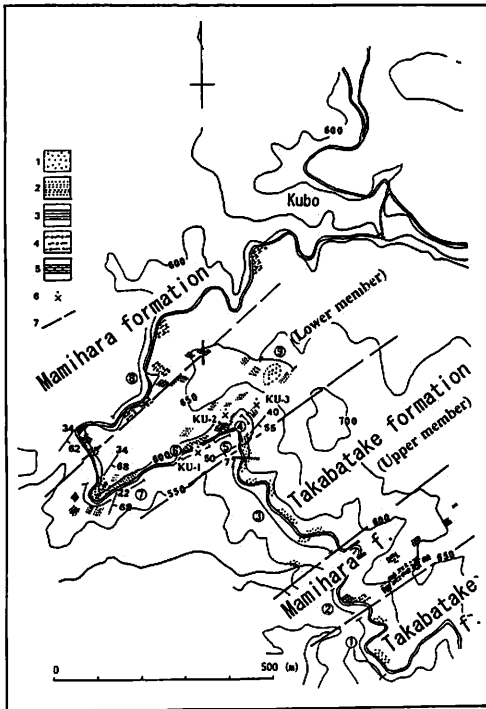


図2 高畑北方のルートマップ

1: 礫岩, 2: 砂岩, 3: 頁岩, 4: 岩礫泥岩, 5: チャート, 6: 動物化石, 7: 断層

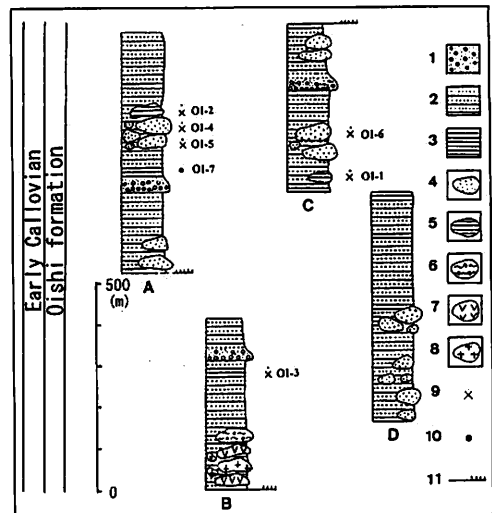


図5 大石層の柱状図

1: スランプ礫岩, 2: 砂岩頁岩互層, 3: 頁岩, 4: 塊状砂岩ブロック, 5: 頁岩ブロック, 6: 流紋岩質砂岩, 7: 酸性凝灰岩, 8: 花崗岩, 9: 動物化石, 10: 植物化石, 11: 断層

図1~図4 田中他 (1997)